



第 133 号
〒733-0032 広島市西区東観音 8-10
ワールド・フレンドシップ・センター
理事長 森下 弘
TEL (082)503-3191
FAX (082)503-3179
E-Mail wfchiroshima@nifty.com
URL: wfchiroshima.net

思い出の一日

ドン&ポーリン・ヘス

8月6日、WFC館長と理事は平和公園で何千人もの平和を求める人々とともに広島平和記念式典に出席した。今年は初めて、いまだ名前がわからない多くの犠牲者を追悼して原爆死没者慰霊碑に「氏名不詳者多数」の言葉を添えた名簿が納められた。

平和記念式典後、午前中、オリアンダーによる朗読劇、今回アメリカPAXメンバーの一人である堀江壮さんの原爆証言(P2参照)が、午後は原爆供養塔の広場で、子どもたちがクワイアを、渡辺朝香さんがソロを、ドン館長が子どもたちに平和のメッセージを伝え、夜は灯籠流しを行った。また、劣化ウラン兵器禁止を訴える国際会議(ICBW)の約30人のメンバーがともに灯籠流しに参加できてうれしく思った。

(P3-4の記事参照)



PAX チーム アメリカへ

ドン・ヘス

9月11日、WFCのPAXチームがアメリカへ向け旅立ちました。ワシントン DC をかわきりに最後のシアトルまで23日間の旅です。チームは日本人の経験、知識、様々な場所、場面での平和活動について語ると同時に、アメリカ人ピースメーカーの戦争文化を平和文化へと転換していく為の努力に耳を傾けることになっています。

今回の訪問はずっと続いているアメリカとの平和使節交換プログラムの一環ですが、文化や考え、個人の経験等を通じた平和希求の道を模索するため、日米間の対話を重視しようとしています。

チームは、男性被爆者2名、女性1名、若い大学院生1名という構成でそれぞれが独自の話をします。メンバーの簡単なプロフィールは次ぎの通りです。

小峯秀孝(長崎)

1940年長崎市生まれ。離婚後3人の子供を一人で養育。理容学校に学び免許を取得、自分の理髪店を開業、現在は既に退職。様々な機会に被爆体験談を語り平和活動にかかわり、被爆関係の青年の会の役職も務める。自叙伝「じいちゃん、その足どげんしたと」を出版。修学旅行生らへの被爆体験の語り部活動を続けている。

堀江壮(広島)

1940年呉市生まれ。既婚、息子が2人。1人は結婚し2人の子供があり、もう1人は独立して生活。岡山大学(農芸化学専攻)卒業後、製薬会社に38年間勤務。様々な平和活動—平和関係のグループに、小學校生徒にと被爆体験のほか戦争がいかに環境を破壊し資源をむだ遣いしているかを語る—を行う外、障害者に木工を教え、外国人に日本語を教える、森林ボランティアとして野外生活指導などのボランティア活動をしている。

山下美枝子(広島)

1939年呉市生まれ。既婚、娘と息子の子ども2人、孫5人。大学では英文学専攻、今日まで英語の勉強を続ける。英検I級取得[1979]、日本YMCA同盟による英語S級認定[1986]。LL教室で子供に、後にトライデントカレッジで英語講師を務め、家庭教師を経て現在は翻訳、通訳等、WFCやヒロシマスピークスアウトなどでボランティア活動をする。

上山耕平(広島)

1980年沖繩生まれ。広島市立大学修士過程で平和学を勉強中。書店でアルバイトや家庭教師。9条の会その他平和関連国際会議や行事で積極的にボランティア活動をする。

予定されている訪問先は、ワシントンDC、ノースマチェスター(インディアナ州)、ブラフтон(オハイオ州)、ゴーシェン(インディアナ州)、シカゴ/エルジン

(イリノイ州)、そしてシアトル(ワシントン州)。これら各地において、メンバーは夫々に伝えたい思いをしっかりと話す機会を与えられるでしょう。また、共通のゴールである核兵器廃絶に向けたアメリカのピースメーカーの努力を学んで来ようと期待を膨らませています。

WFCアメリカ委員会、とくにPAXコーディネーターのBeverly Eikenberry, Alice Petry, Jeanette Lahmanの皆様にはPAXのための計画、調整、連絡など多大な努力を重ねていただいた事に深く感謝しています。

~~~~ ☆ミ ☆ミ ☆ミ ~~~~

## 夫の死の意味するもの

渡辺道子



広島では珍しい大雪の積もった日、2005年12月6日の日曜日の午後のことであつた。府中教会の礼

拝を終えて、牧師を誘い夫の正治と三人でWFCのクリスマスパーティに参加した。出席者に男の人がいないからとて、クリスマス劇のヨセフ役に引っ張り出された夫はにこにこして明るい綺麗なブルーのガウンを着て現れた。私は良く似合うなーと一瞬思った。しかしその後、五ヶ月して突然に死を迎えるとは想像もつかなかった。

2006年5月16日のことである。午前中河村病院の院長に会いたいとて予約をとり、診察を受けて自宅に戻りソファーに横になってテレビを見ていた。異常に気づいた私が救急車を呼んだが間に合わず何の苦しみもなく女房に看取られて天に召された。急性心筋梗塞である。

死の瞬間、旧約聖書のエノクの死が脳裏をかすめた。「神が彼を取られたので、いなくなった。」と書かれている。その死が絶望や虚無ではなく、神のもとへ移されたのでこの世にいなくなったという出来事としてとらえられている。聖書の中には沢山の人が出てくるが、人の一生は長い短いの違いはあっても「そして死んだ」という事実によって終止符が打たれている。正治は死を見ないで天に移されたような気がする。

弔辞を述べてくださった丸屋博先生が「僕は、とてもうらやましいと思いました」とお手紙をくださった。医者であり詩人として私の心をくみあげ、ときほぐしてくださった。在韓被爆者渡日治療委員会総会、広島ホームアジア留学生45周年のパーティ等への出席。チェルノブイリ原発事故後、被災者の心的外傷ストレス(PTSD)の支援や研究にもあたっていた。

連日忙しい日々が続いていた。バーバラ・レイノルズさんの信じていた絶対平和主義の言葉と祈り、正治も同じであった。自らの置かれた社会的立場の中で歴史的な責任を担って生きようとする姿勢もついていた。今ごろは天国で楽しく WFC の話をしているに違いない。

### WFC のホーム・ページ

インターネットへのアクセスはありますか。もしお持ちでしたらあなたのお名前を、わたしたちのアドレス帳に付け加えさせていただければ、WFC のホーム・ページの変更をお知らせしたり、季刊誌「友愛」をお送りしたり、WFC の重要な行事などをお知らせできます。どのようなご意見、ご感想でもお寄せください。

[wfchiroshima@nifty.com](mailto:wfchiroshima@nifty.com).

### 「劣化ウラン兵器の禁止を訴える国際大会」

2006年8月3日～6日

—ヒロシマ・アピールを世界に発信—

国際大会広島実行委員会事務局長

森瀧春子



[劣化ウラン兵器]は 1991 年の湾岸戦争で使用されて以来、バルカン戦争、アフガニスタン攻撃、再びイラク戦争で大量に使用されてきた。イスラエルによるレバノン攻撃でもその使用の可能性が報告されている。[劣化ウラン弾]はアメリカなど 6 ヶ国で製造され約 20 カ国が保有し拡散している。それだけでなく韓国や沖縄などの米軍基地にも配備されている。

ヒロシマは、その被爆体験から核兵器廃絶の運動に取り組んできたが、2003 年のイラク戦争反対運動では、「NO WAR」と共に[NO DU(劣化ウラン兵器禁止)]を掲げて、6000 人の市民による人文字などで訴えた。放射能被害の恐ろしさを体験から知っているからだ。

[劣化ウラン弾]による放射能の被害は、イラクで最も深刻に現れていて、放射能の影響を敏感に受ける子供たちが白血病や腎臓がんなどで1ヶ月に6000人から7500人も亡くなっていっているし、先天性の障害も異常に多く現れたり、多重ガンで苦しみ死亡するケースも増加している。

バルカン地域などでも多くの人たちが苦しんでいるが、[劣化ウラン弾]使用による被害は攻撃された

側だけでなく、使用した側のアメリカ兵などにも深刻な被害をもたらしている。昨年日本に招いたイラク帰還米兵のジェラルド・マシューさんは2003年4月から4ヶ月イラクに派兵され健康を壊して帰還させられたが、2004年6月に生まれたビクトリアちゃんには手指が欠損していた。

同時期にイラク・サマワ地域に派遣されていた9名の健康を害した米軍憲兵隊員はドイツの専門機関による尿検査を受けた結果、マシューさんと同じく劣化ウランが検出され、体内被曝が問題となっている。現在、彼らは米国政府に対し劣化ウラン被爆による健康破壊認定の訴訟を起こしている。今回の国際大会で訴えたイラク帰還兵のハーバート・リードさんもその一人だ。

広島で8月3日から6日まで開催した[劣化ウラン兵器禁止を訴える国際大会]は、多くの皆さんの支援をいただき、おかげで非常に有意義な大会として成功した。支えてくださった皆様に心から感謝します。国内外各地から12カ国40人の海外参加者を含め大会参加登録者は400人に及び、延べ1000人が集う大規模な国際大会となり劣化ウラン兵器禁止の運動に大きな飛躍をもたらすものとなった。

被害地のイラクからは医療に当たる医師や環境汚染の調査に当たる科学者たち、被害に苦しむアメリカ、イギリス、イタリアの帰還兵士達、劣化ウランの被害調査研究に取り組む各国の医学者、科学者たち、ウラン兵器禁止条約の実現に取り組む法律家や活動家たち、告発するジャーナリストたちが10の各セッションで次々と発表し、熱気に溢れる議論を展開した。

劣化ウラン弾は、核兵器や原発燃料の製造過程で生じる核廃棄物を原料としており、その比重の重さと硬さから破壊力に[優れた]兵器とされ、[劣化]と名づけられているが、半減期は45億年で放射能力

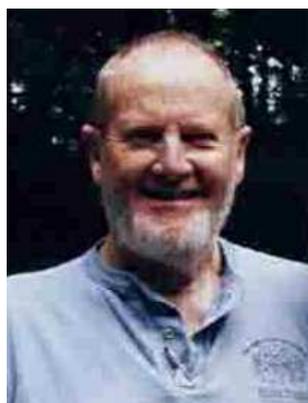
は天然ウランの60%も有するというもので、いったん人体に取り込まれたり環境を汚染してしまうと取り返しのつかない破壊をもたらす。劣化ウラン兵器は放射能毒性のみならずその重金属毒性との相乗作用をもたらす非人道的大量破壊兵器であり、製造、貯蔵、輸出、使用のすべてを一刻も早く禁止しなければならない。NODU国際大会はこの劣化ウラン兵器の即時禁止のための[ヒロシマ・アピール]を世界に発して、国際キャンペーンの力強い出発点とした。

\* なお、大会の様子動画映像は「NODUヒロシマ・プロジェクト」のホームページ <http://www.nodu-hiroshima.org> でご覧下さい。

\* 大会記録報告集は'07.1 発刊予定  
(予約刊行2000円)

## ワールドフレンドシップセンター元館長 ビル・チャペル氏を追悼して

ドン・ヘス



ウイリアム・デイビッド・チャペルは、1926年6月27日、ペンシルバニア州、フィラデルフィアで生まれ、去る8月11日、ジニー夫人と、キャロル、ナンシー、デボラ、ウイリアムの4人の子どもを遺して他界した。

彼は、第二次大戦中に海軍に入隊し、帰還後はサドーソン高等学校で学んだ後、フィラデルフィアのピアスビジネススクールに入って、1949年に学位を取得した。

彼の生涯のうちの大部分をペンシルバニア州の

いろいろな会社で保険業務に携わった。彼は教会で、長老、教会学校の教師、クワイアのメンバーと、積極的に活動に参加した。また、教会外では、ボーイスカウト、恵まれない人を支援する非営利団体であるサービスクラブ、交換留学生のお世話などをして、社会のために貢献した。

1984年仕事を辞め、BVSのボランティアとして、メリーランド州ニューウインザーでの難民や災害の救援、広島でワールドフレンドシップセンターの館長、ワシントン州クレエラムでのキリスト教の信徒集会、ペンシルベニア州のプレズレンのハットフィールド教会、アーカンソー州ペリーヴィルのヘーファープロジェクト・インターナショナル(貧しい国に家畜を送って自立を助ける活動)など、さまざまな活動に関わった。

1996年、これらのボランティア活動から「隠退」し、夫妻でテネシー州プレザントヒルのアップランド高齢者ホームに居を移した。そこでもさまざまなボランティア活動に参加していたが、ビルが体調を崩したため大方の活動を中止した。6月にウォートン養護ホームに入居し、8月11日に逝去した。彼の形見の品はウォートン視力障害者支援プログラムや、ヘーファープロジェクト・インターナショナル、ワールドフレンドシップセンターなどに送られるようである。

～～～☆ミ ☆ミ ☆ミ～～～

## 新理事紹介



平岡佐知子さんが5月の総会で理事として承認されました。平岡さんはWFCの翻訳グループ、英会話教室に4年前から参加しています。大

学で英文学を専攻し、現在塾で生徒に英語を教えて

います。また結婚して、今は家から離れてそれぞれ暮らしている2人の子どもがいます。趣味は読書、生け花。現在ピースパークガイドにも興味を持っています。WFCに通うようになったきっかけは英語の上達のためでしたが、WFCのかたがたの熱心な活動に心を引かれ積極的にかかわるようになりました。彼女の参加が理事会に有益だと、館長からの推薦がありました。佐知子さん理事会へようこそ！

～～～☆ミ ☆ミ ☆ミ～～～

## フレンドシップ・アフタヌーン

### ラリー&アリス・ペトリー

スー・ズバーバイアーが、6月3日に WFC でマラウイでの彼女の生活について話しました。マラウイはアフリカの南東部にあり、モザンビーク、ザンビア、タンザニアに接している小さい国です。スーは看護婦で、彼女の夫は学校長です。日本で12年間も英語を教えていた彼女のいとこのルース・マシュマイアーがスーと一緒に WFC に滞在しました。

スーは妊婦や幼い子供のためにブッシュ[未開拓地]にあるクリニックで働いていました。そこは非常に貧しい人々のための簡素な診療所です。普段は女性と子供だけを治療する所ですがスタッフの治療法が評判となり男性も来ました。人々は時々、まじない師のところに行くのですが、危険な伝染病の場合はスーと看護師が命を救うために適切な抗生物質を与えました。そして栄養や産児制限についても指導しました。必要な食料が不足して食物が十分に与えられないので子供は2年間母乳で育てなければなりません。肺炎、肝炎、ジフテリア、破傷風、百日咳、ポリオ、結核などの病気に対して子供たちに予防接種をあたえました。

都市では子供は学校に行きますが、ブッシュでは親は子供を学校へやるお金がありません。双子や三つ子が生まれた場合は長男〔長女〕が学校を辞めて赤ん坊の世話を手伝わなければならないのです。生徒には教科書も紙も無いので習うものは全部暗記します。先生は男性で、英語は全員に教えます。この小さい国には57の異なる部族語があります。

人々は小さいねずみを尻尾から毛までも湯がいたり揚げたりして食べます。安くて大衆的なスナックです。人や物資の輸送には雄牛が引く荷車が使われました。U.S.A.からの寄付によって人々の空腹を和らげ、必要な医薬品が供給されました。スー達はWHOとも協力して働きました。

女性は料理、掃除、水汲み、薪集め、作物や子供の世話など殆どの仕事をします。スーのグループでは動物がいなくなり狩が終わってからは男性に働くようにさせました。彼女のグループは食料の無い数ヶ月間のために家族全員が作物増産のために働いた時には、褒美として種を与えました。主な作物はとうもろこしです。とうもろこしを粉にして彼らの主食であるンシマをつくります。

スーはマラウイの人々について沢山の話をしてくれました。10人の出席者も色々な質問をしました。



## HPI研究フォーラム

ドン&ポーリン・ヘス

ロバート・ジェイコブ氏による「広島・長崎への原爆投下に関する米国人の見方とその背景」についての講演が広島平和研究所主催で行われた。広島、長崎への原爆投下に対するアメリカ人の姿勢を語るこの興味深い講演会にWFCからも数名出席した。

①原爆は戦争を早期終結させた。②原爆はアメリカ人と日本人の命を救った。という2つの物語が今でも広くアメリカ人の信じていることである。ジェイコブ氏はなぜそれほど多数のアメリカ人がこの物語を信じているかを述べた。それはアメリカの偉大さを示す物語で、アメリカ人はアメリカが行ったことは社会に有益だったとみなしている。アメリカはアジアの国々に平和をもたらしたのだ。ジェイコブ氏はいくつかの興味深い指摘をした。

現在、この問題は議論されているが、アメリカ、日本のどちら側も大多数はあまりに感情的解釈にはまり込んでいるというのが真実だ。判断は歴史が下すべきである。我々の主な関心事は、変えることのできない過去ではなく、変えることのできる未来であるべきだ。ノーモアヒロシマはノーモア核兵器なのだ。



### 友愛ボランティア

翻訳：佐久間佳子 山下美枝子 平本隆子

山根美智子 平岡佐知子

編集：英語版 Don Hess

日本語版 浜井道子



灯籠流しの歴史について語る館長



灯籠流し



8月6日 平和記念式典



平和記念式典での平和への誓い



8月6日 地球ハーモニーコンサート



2006 年度総会